

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月2日

上場会社名 アステラス製薬株式会社  
コード番号 4503 URL <http://www.astellas.com/jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 広報部長  
四半期報告書提出予定日 平成22年2月9日  
配当支払開始予定日 —

上場取引所 東大

(氏名) 野木森 雅郁  
(氏名) 河村 真

TEL 03-3244-3201

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	772,778	1.8	182,620	△17.4	184,004	△24.4	116,061	△23.8
21年3月期第3四半期	758,984	—	221,155	—	243,348	—	152,389	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第3四半期	247.67	247.47
21年3月期第3四半期	315.16	314.97

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期第3四半期	1,362,910	1,060,891	77.7	2,294.06
21年3月期	1,348,446	1,030,221	76.3	2,189.26

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 1,059,434百万円 21年3月期 1,028,987百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	60.00	—	60.00	120.00
22年3月期	—	60.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	65.00	125.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	976,000	1.1	200,000	△20.1	200,500	△26.1	125,000	△26.9	267.72

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有  
1株当たり当期純利益、自己株式取得の為

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
(注)詳細は、9ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- |                 |   |
|-----------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う変更 | 無 |
| ② ①以外の変更        | 無 |
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- |                      |             |              |             |              |
|----------------------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  | 22年3月期第3四半期 | 475,964,635株 | 21年3月期      | 503,964,635株 |
| ② 期末自己株式数            | 22年3月期第3四半期 | 14,147,881株  | 21年3月期      | 33,948,017株  |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 | 468,613,634株 | 21年3月期第3四半期 | 483,525,667株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、8ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期（2009年4月1日から12月31日までの累計期間、以下同じ。）の連結業績は、以下の通り売上高は増収、営業利益、経常利益、四半期純利益は減益となりました。

なお、当第3四半期の為替レートは、前年同期に比べ、米ドルに対して9円、ユーロに対して18円の円高となったことから、売上高において405億円の減収、営業利益においては228億円の減益の影響がありました。

#### 【連結業績】

（単位：百万円、端数切捨て）

	前第3四半期 (2009年3月期)	当第3四半期 (2010年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	758,984	772,778	+13,794 (+1.8%)
営業利益	221,155	182,620	△38,534 (△17.4%)
経常利益	243,348	184,004	△59,343 (△24.4%)
四半期純利益	152,389	116,061	△36,327 (△23.8%)

当第3四半期の為替レート：94円/米ドル、133円/ユーロ  
前第3四半期の為替レート：103円/米ドル、151円/ユーロ

#### 【売上高】

連結売上高は7,727億円（前年同期比1.8%増）となりました。

- ・ グローバル製品である過活動膀胱治療剤**ベシケア**の売上が着実に拡大したほか、キャンディン系注射用抗真菌剤**マイカミン**が伸長しました。免疫抑制剤**プログラフ**は、円高の影響に加えて、2009年8月に米国で後発医薬品が発売されたことに伴う競争激化により、売上が減少しました。前立腺肥大症の排尿障害改善剤**ハルナール**は、米国でのライセンシーによる好調な販売を受けてバルク・ロイヤリティ収入が増加しました。
- ・ 国内の医療用医薬品の売上高は順調に拡大し、4,084億円（同4.3%増）となりました。**プログラフ**、**ベシケア**の拡大に加え、持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤**ミカルディス**が、利尿剤との配合剤である**ミコンビ**（2009年6月発売）と併せ売上が拡大したほか、高コレステロール血症治療剤**リピトル**、非ステロイド性消炎・鎮痛剤**セレコックス**などの売上が伸長しました。また、季節性ならびに新型インフルエンザ用などの**ワクチン**が売上拡大に寄与しました。
- ・ 海外では**ベシケア**、**マイカミン**に加え、米国において心機能検査補助剤**レキスキャン**が好調に推移したほか、欧州では進行性前立腺癌治療剤**エリガード**が売上拡大に寄与しました。

- ・ 海外売上高は、円高の影響を受け3,605億円（同0.7%減）、海外売上高比率は46.7%（同1.2ポイント減）となりました。

#### 【営業利益】

連結営業利益は1,826億円（同17.4%減）となりました。

- ・ 売上高は増加しましたが、当第3四半期の売上原価率が、製品構成の変化などにより30.3%（同2.9ポイント上昇）となったことから、売上総利益は5,386億円（同2.3%減）となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費合計は3,560億円（同7.9%増）となりました。この増加の主な要因は研究開発費の増加によるものです。
- ・ 研究開発費は1,401億円（同21.1%増）となりました。また、対売上高研究開発費比率は、前年同期より2.9ポイント上昇し18.1%となりました。開発プロジェクトの進展に伴う費用やつくば研究センターの新研究棟の償却費が増加しました。また、メデイベーション社（米国）との前立腺がん治療剤MDV3100に関する契約（2009年10月締結）、アイアンウッド社（米国）との便秘型過敏性腸症候群治療剤リナクロチドに関する契約（2009年11月締結）ならびにアンビット社（米国）とのFLT3チロシンキナーゼ阻害剤に関する契約（2009年12月締結）などの製品導入に伴う一時金計上額が前年同期に比べ増加しました。

#### 【経常利益】

連結経常利益は1,840億円（同24.4%減）となりました。

- ・ 金利低下の影響により受取利息が減少したことに加え、為替差益118億円を計上した前年同期に対し、当第3四半期は為替差損21億円を計上したことなどから、営業外収益が185億円減少し、営業外費用が22億円増加しました。この結果、営業外損益が悪化しました。

#### 【四半期純利益】

連結四半期純利益は1,160億円（同23.8%減）となりました。

- ・ 特別損益においては、特別利益7億円、特別損失69億円を計上した前年同期に対し、当第3四半期は、特別利益2億円、特別損失35億円を計上しました。この結果、特別損益が改善しました。

## <所在地別セグメント>

### ◇日本

日本セグメントの売上高は4,241億円(同4.3%増)、営業利益は1,175億円(同22.0%減)となりました。

- ・ 国内の医療用医薬品の売上高が順調に拡大しました。ミカルディス(ミコンビを含む)、プログラフ、リピトール、ベシケア、入眠剤マイスリー、統合失調症治療剤セロクエルなどの主力品が売上を伸ばしました。また、セレコックス、経口キノロン系合成抗菌剤ジェニナック、骨粗鬆症治療剤ボノテオなどの新製品群のほか、ワクチンが売上拡大に寄与しました。一方、消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスターの売上は減少しました。
- ・ 売上高は増加しましたが、売上原価の増加に加え研究開発費が増加したことなどにより営業利益は減少しました。

### ◇海外

北米セグメントの売上高は1,416億円(同2.1%減)、営業利益は176億円(同39.0%減)となりました。

- ・ 円高の影響を受け減収となりましたが、現地通貨ベースでの売上高は、前年同期に比べ7.6%増加しました。
- ・ ベシケア、レキスキャン、マイカミンなどが順調に拡大しました。一方、プログラフは2009年8月に米国で後発医薬品が発売されたことに伴う競争激化により減収となりました。
- ・ 売上高の減少に加えて、製品構成の変化やグループ間の取引におけるプログラフの移転価格引き上げなどにより売上総利益が減少しました。また、研究開発費が増加したことなどから営業利益は減少しました。

欧州セグメントの売上高は1,839億円(同1.4%減)、営業利益は408億円(同5.2%増)となりました。

- ・ 円高の影響により減収となりましたが、現地通貨ベースでの売上高は、前年同期に比べ11.7%増加しました。
- ・ ハルナールは、バルク・ロイヤリティ収入が増加しました。自社販売(欧州での製品名: Omnic/Omnic OCAS)による売上は円高の影響により減少しましたが、現地通貨ベースの売上は横ばいで推移しました。プログラフも円高の影響を受け減少しましたが、現地通貨ベースの売上は引続き拡大しました。なお、プログラフは2009年6月に欧州主要国で物質特許が満了しましたが、当第3四半期において後発医薬品の発売は確認されていません。また、ベシケア、エリガードが着実に売上を伸ばしたほか、マイカミンも寄与しました。
- ・ 売上高は減少しましたが、グループ間の取引におけるプログラフの移転価格引き下げやハルナールに関わるライセンスからの経費戻入れの増加もあり欧州負担の経費が減少したことなどから、営業利益は増加しました。

※当社グループでは、主として欧州地域の資金を効率的に活用した最適なビジネス構造を推進しています。その結果、北米での一部の事業に関する売上総利益及び

販売促進活動に関わる費用などが、所在地別セグメント上では欧州地域のセグメントに計上されています。

アジアセグメントの売上高は230億円（同10.2%増）、営業利益は28億円（同6.3%減）となりました。

- ・ 円高の影響を受けたものの、売上高は増加しました。プログラフが順調に伸長し、ベシケア、マイカミンも寄与しました。また、ハルナールは堅調に推移しました。増収となりましたが、営業利益は減少しました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### <貸借対照表>

当第3四半期末(2009年12月31日時点)における総資産は、1兆3,629億円(前期末比144億円増)となりました。受取手形及び売掛金が397億円増加し、有価証券が332億円減少しました。

負債は、3,020億円(同162億円減)となりました。未払法人税等が191億円減少しました。

純資産は、1兆608億円(同306億円増)となり、自己資本比率は77.7%となりました。四半期純利益1,160億円を計上した一方で、剰余金の配当564億円、自己株式取得269億円を実施しました。なお、2009年6月23日に自己株式の消却1,280億円(2,800万株)を実施しております。

### <キャッシュ・フロー計算書>

営業活動によるキャッシュ・フローは1,097億円(前年同期比547億円減)となりました。税金等調整前四半期純利益が565億円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは△383億円(同80億円支出増)となりました。有価証券の取得による支出が増加した一方で、有価証券の売却による収入が増加しました。また、無形固定資産の取得による支出が増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは△852億円(同987億円支出減)となりました。自己株式の取得による支出が269億円(同965億円減)、配当金の支払額が564億円(同22億円減)となりました。

これらの結果、当第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は3,952億円(前期末比145億円減)となりました。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期（2010年3月期）の通期連結業績予想は以下の通りです。2009年11月に公表した予想数値からの変更はありません。

#### [通期連結業績予想]

(単位：百万円、端数切捨て)

	2009年3月期 通期実績	2010年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上高	965,698	976,000	+10,301 (+1.1%)
営業利益	250,394	200,000	△50,394 (△20.1%)
経常利益	271,451	200,500	△70,951 (△26.1%)
当期純利益	170,986	125,000	△45,986 (△26.9%)

2010年3月期通期の想定為替レート : 93円/米ドル、132円/ユーロ  
2009年3月期通期の為替レート(実績) : 101円/米ドル、143円/ユーロ

なお、当社では新製品の発売時期の見直しなど内部要因の変化に加えて、医療費抑制策の進展、世界的な景気後退、為替の変動などの環境変化を織り込んだうえ、2010年度（2011年3月期）を初年度とする5か年の新たな中期経営計画を、2010年5月25日に公表する予定です。



## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・ 簡便な会計処理

該当事項はありません。

・ 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

[ 税金費用の計算 ]

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	279,168	267,460
受取手形及び売掛金	262,775	222,982
有価証券	213,176	246,463
商品及び製品	81,941	80,755
仕掛品	13,996	12,505
原材料及び貯蔵品	15,878	12,169
その他	121,205	122,324
貸倒引当金	△1,244	△1,020
流動資産合計	986,898	963,640
固定資産		
有形固定資産	184,020	181,447
無形固定資産		
のれん	21,166	26,377
その他	41,808	31,984
無形固定資産合計	62,974	58,361
投資その他の資産		
投資有価証券	76,750	89,562
その他	52,322	55,489
貸倒引当金	△56	△57
投資その他の資産合計	129,016	144,995
固定資産合計	376,011	384,805
資産合計	1,362,910	1,348,446
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	100,400	89,769
未払法人税等	20,563	39,681
引当金	4,442	2,918
その他	146,068	151,183
流動負債合計	271,475	283,553
固定負債		
退職給付引当金	15,039	15,029
その他の引当金	21	15
その他	15,481	19,626
固定負債合計	30,543	34,671
負債合計	302,018	318,224

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	103,000	103,000
資本剰余金	176,821	176,821
利益剰余金	888,906	957,346
自己株式	△54,165	△155,295
株主資本合計	1,114,563	1,081,873
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,782	10,018
為替換算調整勘定	△68,911	△62,904
評価・換算差額等合計	△55,129	△52,886
新株予約権	1,136	894
少数株主持分	321	338
純資産合計	1,060,891	1,030,221
負債純資産合計	1,362,910	1,348,446

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	758,984	772,778
売上原価	207,708	234,093
売上総利益	551,275	538,685
販売費及び一般管理費	330,120	356,065
営業利益	221,155	182,620
営業外収益		
受取利息	8,535	2,461
受取配当金	1,432	1,085
持分法による投資利益	—	166
為替差益	11,837	—
その他	1,062	638
営業外収益合計	22,867	4,351
営業外費用		
持分法による投資損失	77	—
為替差損	—	2,183
その他	596	783
営業外費用合計	674	2,967
経常利益	243,348	184,004
特別利益		
固定資産売却益	321	45
投資有価証券売却益	413	—
その他	59	164
特別利益合計	794	209
特別損失		
固定資産除売却損	1,636	1,755
減損損失	—	1,056
割増退職金	2,644	—
投資有価証券評価損	1,877	—
その他	755	732
特別損失合計	6,913	3,544
税金等調整前四半期純利益	237,229	180,669
法人税等	83,228	63,149
少数株主利益	1,610	1,457
四半期純利益	152,389	116,061

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	237,229	180,669
減価償却費	26,020	28,307
減損損失	—	1,056
のれん償却額	5,780	5,960
受取利息及び受取配当金	△9,968	△3,546
有形固定資産除売却損益 (△は益)	1,314	1,710
売上債権の増減額 (△は増加)	△38,669	△40,397
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△14,551	△7,188
仕入債務の増減額 (△は減少)	30,952	11,206
その他	△5,073	3,321
小計	233,033	181,099
利息及び配当金の受取額	10,173	3,718
法人税等の支払額	△78,733	△75,063
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>164,472</b>	<b>109,754</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△46,408	△137,324
有価証券の売却による収入	62,091	143,508
有形固定資産の取得による支出	△23,273	△28,365
有形固定資産の売却による収入	3,786	936
無形固定資産の取得による支出	△8,918	△20,793
投資有価証券の取得による支出	△17,878	△9,370
投資有価証券の売却による収入	786	6,694
その他	△396	6,411
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△30,210</b>	<b>△38,301</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△123,586	△26,986
配当金の支払額	△58,624	△56,401
少数株主への配当金の支払額	△1,595	△1,454
その他	△283	△451
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△184,090</b>	<b>△85,294</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△43,168	△741
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△92,997	△14,582
現金及び現金同等物の期首残高	460,485	409,826
現金及び現金同等物の四半期末残高	367,488	395,243

#### (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

#### (5) セグメント情報

##### 【事業の種類別セグメント情報】

当社グループの事業は、販売方法及び製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して「医薬品及びその関連製品事業」とこれに属さない「その他の事業」に区分しております。全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める「医薬品及びその関連製品事業」の割合が、いずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

##### 【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）（単位：百万円、端数切捨て）

	日本	北米	欧州	アジア	計	消去 又は全社	連結
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	406,825	144,654	186,630	20,874	758,984	—	758,984
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	99,225	51,287	47,860	10	198,383	(198,383)	—
計	506,050	195,942	234,490	20,884	957,367	(198,383)	758,984
営業利益	150,581	28,968	38,805	3,028	221,383	(228)	221,155

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）（単位：百万円、端数切捨て）

	日本	北米	欧州	アジア	計	消去 又は全社	連結
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	424,128	141,649	183,997	23,003	772,778	—	772,778
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	89,742	49,755	51,210	22	190,732	(190,732)	—
計	513,870	191,405	235,208	23,026	963,511	(190,732)	772,778
営業利益	117,505	17,669	40,807	2,836	178,819	3,800	182,620

**【海外売上高】**

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
I 海外売上高 (百万円)	176,261	143,689	28,516	14,763	363,232
II 連結売上高 (百万円)					758,984
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	23.2	18.9	3.8	2.0	47.9

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
I 海外売上高 (百万円)	178,614	139,653	31,138	11,125	360,532
II 連結売上高 (百万円)					772,778
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	23.1	18.1	4.0	1.5	46.7

**（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記**

該当事項はありません。

**（7）研究開発費の総額**

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）  
115,698百万円

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）  
140,101百万円